

平成30年度 第2回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

学校長 濱 崎 公 嗣

評 価 日	平成31年2月19日（火）	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 ○基礎学力向上を基盤とした専門教育の充実 ・今年度の保育実習・生徒アンケートの内容が充実していた。幼児教育の特徴をよく捉え専門的な視点での感想や気づきとともに、将来保育にかかわる覚悟もよく書いてあった。 ・資格取得によく頑張っている。鳥取湖陵高校に進学すれば専門の力がつくし大丈夫と思えてくる。今後も頑張してほしい。 ・家庭学習時間が少ない。資格取得など専門教育の推進とともに、共通教科の指導もおろそかにせず、しっかり取り組んでほしい。卒業時に少しでも高い得点が取れるようになってほしい。 ・専門教科のレポート作成はかなりの時間がかかるが、共通教科の学習が専門教科の学習とリンクしていることも多いと思う。 ○地域・産業界との連携推進 ・地域の立場より、鳥取湖陵高校で実施いただいた公民館講座「SNS講習会」では、生徒の皆さんが大変丁寧に教えてくれた。自分たちが学習したことを教えるという立場になることで、学習が深まると感じた。継続的な取組になれば、地域との一体感が増し、お互いの理解が更に進むと思う。 ○共生の心・自他を尊重する気持ちの育成 ・生徒アンケート「心の教育」の結果が前年より下がっている。各科や学年ごとの分析をするなど、心の変化には十分注意を払ってほしい。 ○規範意識の確立・生徒の心情理解 ・生徒アンケート「服装・身だしなみが良い」90.4%は評価基準「B」である。自己評価「C」の理由は何か？ ・高校生の姿が乱れると中学校での指導が大変やりづらいが、鳥取湖陵高校では中学校と一致した方向で規律ある生徒指導をしていただいて大変ありがたい。小中高が同じ方向で指導をつないでいくことが大切である。 ・保幼小中高とつながる教育において、高校生はその最終モデルとして社会から注目を浴びることが多い。大変だと思うが、細やかに対応し続けてほしい。		・今後もイベント的な実習ではなく、学習の成果を検証(Check)し、次の学習改善(Action)につなげる実習としたい。 ・専門教科と共通教科の授業連携などで、学習意欲の向上に取り組む予定。また、資格取得や模擬試験などの準備期間を示した進路カレンダーを作成し、計画的な学習をすすめたい。 ・GAP・HACCPの取得や各科の専門性や施設を地域にもっと還元し、将来は地域のセンタースタッフ的役割も果たしたい。 ・状況をよく分析し、注視していきたい。関係職員での情報共有などにも引き続き取り組む。 ・身だしなみに自覚を持つという部分で不十分な面があり、「C」評価とした。鳥取湖陵高校生としての自覚と誇りを更に高めたい。

(2)説明・公表について とくになし。 2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について ・各年度の方針を明確にし、それに応じて事業をスクラップする等メリハリのある運営をしてほしい。 3. 取組改善のための提言 ○保護者・地域との連携推進 ・HPの情報発信は携帯端末からの閲覧がスムーズでない。他の方法も検討してはどうか。 ・新聞報道だけでなく、日頃から継続的な情報発信をHPなどで取り組んでほしい。	・来年度は「生徒に付けたい力」を事業ごとに整理し、取り組む予定。 ・HPでの発信に努力してきた。閲覧環境について今後検討したい。
--	---